鳥取大学動物実験報告書記入要領	
記入と提出	【年次報告の場合】 毎年度末ごとに実施内容を記入し、検証項目をチェックして提出する。 【終了報告の場合】 動物実験終了後一ヶ月以内に、検証項目のチェック、実施結果と成果を記入して提出する。 【年次報告/終了報告 共通】 動物実験責任者、研究課題、承認番号、動物実験実施予定期間、飼養保管施設及び実験室、想定される苦痛のカテゴリーの欄については、実験計画書の当該項目より自動で入力される。（変更不可）
動物の使用実数	当該動物実験において実際に使用した動物種、系統、性別を記入する。 「計画匹数」欄：当該動物実験計画書に記載されている使用数を記入する。 「今年度使用匹数」欄：当該年度に実際に使用した匹数を記入する。 「延べ使用匹数」欄は：終了報告の場合のみ記入する。 ※米子地区では「今年度使用匹数」および「延べ使用匹数」のうち、購入分の動物数について動物実験施設に問い合わせることが出来る。
3R	
動物の選択 動物数の削減 動物の苦痛軽減 安楽死	当該動物実験を実施した際に「３Ｒ」に則って適正に行われたかを検証する。 それぞれ「適」「不適」のいずれかを選択する。「不適」の場合はその理由を記入する。
施設等の利用	当該動物実験を実施した際に、動物処置室及び動物実験･飼育室を適正に利用したかを検証する。 「適」「不適」のいずれかを選択する。「不適」の場合はその理由を記入する。
教育訓練	動物実験に携わった動物実験実施者及び飼養者に対して、動物実験講習会及び必要な実験に関する教育訓練を行ったかを検証する。 「適」「不適」のいずれかを選択する。「不適」の場合はその理由を記入する。
事故の発生	当該動物実験の実施中に、事故報告書の提出に該当する事故（カルタヘナ法・労働安全法等に関わる事故）が発生したかどうかを記入する。 発生した場合は「あり」を選択し、具体的な内容を記入する。（*欄外参照）

＊ 事故報告書の提出に該当する事故の例

１．実験ならびに輸送中の遺伝子組み換え動物の逃亡

２．遺伝子組換えウイルスを含む可能性のある廃棄物を不活化せずに廃棄

３．実験機器類の誤った使用による外傷

４．実験動物由来感染源により、重篤な感染症を発症した者がいる場合

５．有毒動物（毒ヘビ）、サル、イヌ、ネコ等から外傷を受けた者がいる場合

６．麻薬研究者免許のない者が動物麻酔にケタミンを使用

鳥取大学動物実験報告書記入要領	
終了報告の場合は、以下の欄も記載する（年次報告では記入不要）	
実験終了の年月日	実際に、当該動物実験を終了した年月日を記入する。
実験終了時の状況	期間について、該当する項目を１つ選択する。 「計画した実施期間の途中」を選択した場合にはその理由を記載する。
計画終了時の動物の有無	計画終了時に動物が残存しているかどうかを記入する。 ● すべての動物が計画終了時に安楽死処置されている場合は、「無」を選択する。 ● まだ動物が生存している場合は「有」を選択し、その理由を記入する。具体的には、以下の例が考えられる。 ・ 同じ研究目的の新規・更新等の動物実験に継承される（この場合、研究課題名、承認番号または「申請中」を記入する）。 ・ 別の研究目的の動物実験に継承した（研究課題名、承認番号を記入する）。 ・ 他の研究者や機関に譲渡する（予定日を記入する）。
実験成果の概要	
実験成果	「実験目的、結果、成果」について平易かつ可能な限り具体的に記述する。
学会発表	学会発表があれば可能な範囲で記入する。 発表者名、タイトル、学会名、開催年月日、開催場所を記載する。 学生の卒論発表もこの欄に記載する。
論文発表	論文発表があれば可能な範囲で記入する。 発表者名、タイトル、掲載誌名、巻、ページ、年を記載する。
著書	著書があれば可能な範囲で記入する。 著者名、タイトル、著者名（編）、ページを記載する。
その他	特許出願等があれば可能な範囲で記入する。
その他（実験実施において気付いた事項）	該当する事項があった場合には、記入する。
添付資料	必要に応じて資料を添付する。
※動物実験委員会の意見等	動物実験委員会から改善を求められた場合は、それに従う。